

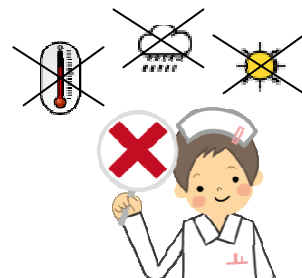
薬の豆知識

vol. 1 薬の保管方法について



さて、みなさん薬をどのように保管しているでしょうか？
知っているようで知らない、お薬の保管方法について、今回は紹介していきたいと
思います。

まず、お薬保管の3大原則として、高温・多湿・直射日光を避けること
が言われています。それは高温・多湿・直射日光による薬の変質を防ぐため
です。変質が起こると、効果が減弱したり有害物質に変わってしまう可能性
があります。ただし、薬の種類によっては、冷所での保管が必要なものなど
があります。保管方法の指示がある場合は、それに従って保管して下さい。



また、食品と同じように、お薬にも使用期限があります。今お話ししたように、高温・多湿・直射
日光などによる変質で、使用期限内でも服用できなくなってしまう場合もあります。
お薬の保管には十分に注意して使用しましょう。



ちなみに・・・おススメしている方法は、
空いた缶の中に乾燥剤と一緒に保管する方法です。
ぜひお試しください。

使用期限内でも使用しない方が良い場合

- ・薬の色が明らかに変わっている、臭いが変わっている
- ・粉薬の色が変わっている、固まっている、臭いが変わっている
- ・透明だった液剤に沈殿があり、良く振っても溶けない
- ・軟膏やクリームなどで色が変わっている、油状のものが浮いている
- ・シップ剤などで表面が乾いている

など・・・・・・・・。

お薬の保管に関して、もうひとつお願いしたいことがあります。
それは、薬が入っている袋（薬袋）を残してほしいということです。この薬袋にはお薬の種類や飲
み方のほか、保管方法や注意事項が書かれているからです。薬を薬袋から出してしまい、時が経
ち・・・「これは何の薬でどれくらい飲めば良いのか？」・・・という質問も時に聞かれます。
お薬をきちんと保管・管理し、安全に服用していただくためにも、今回ご紹介したことが参考にな
ればと思います。

